

あいち防災通信

第17号
発行
愛知県・あいち防災
協働社会推進協議会

明日のために 今できること
一人ひとりが自覚を持って
災害に備えよう



あいち防災キャラクター
防災ナマズン

◆コロナ禍中で起きた令和2年7月豪雨

2020年7月3日から7月31日にかけて、日本付近に停滞した前線の影響で、温かく湿った空気が継続して流れ込み、各地で大雨となり、球磨川や筑後川、飛騨川、江の川、最上川といった大河川での氾濫が相次いだほか、土砂災害、低地の浸水等により、人的被害や物的被害が多く発生しました。また、西日本から東日本の広い範囲で大気の状態が非常に不安定となり、埼玉県三郷市で竜巻が発生したほか、各地で突風による被害が発生しました。

7月3日から7月31日までの総降水量は、長野県や高知県の多い所で2,000ミリを超えたところもあり、多くの地点で、24、48、72時間降水量が観測史上1位の値を超えました。この大雨による被害は、家屋の全壊1,621棟、半壊4,504棟、一部破損3,503棟、床上浸水1,681棟、床下浸水5,290棟でした。

気象庁はこの一連の大雨について、災害の経験や教訓を後世に伝承することなどを目的として「令和2年7月豪雨」と名称を定めました。

新型コロナウイルス感染症の影響下において発生した令和2年7月豪雨は、避難所における「3つの密」を避けるなど、感染症対策をした上での災害対応が必要となりました。

被災前



被災後



くま川鉄道 球磨川第4桥梁の流失





浸水被害を受けた熊本県の旅館業



がれき・土砂が流入した農地

◆東海豪雨から20年

令和2年7月豪雨は、愛知県民に2000年9月の東海豪雨を思い起こさせ、決して他人ごととは思えませんでした。東海豪雨とは今から約20年前、2000年9月11日から12日にかけて愛知県を中心に東海地方の広範囲にわたって大きな被害をもたらした豪雨災害です。

当時、本州付近に停滞していた秋雨前線に、台風14号の東側を回る暖かく湿った空気が断続的に流れ込んだため、前線の活動が活発となり、東海地方を中心に、ほぼ同じ地域で長い時間にわたって雨雲が発生・発達しました。11日夕方ごろから、東海地方の広範囲で大雨が降り、特に愛知県内各地では記録的な大雨が降りました。

名古屋市では11日の1日降水量が、平年の9月の月降水量の約2倍となる428ミリとなり、2日間の合計降水量が567ミリに達しました。東海市では11日の午後7時までの1時間に114mm、1日の降水量492mmを記録しました。

その結果、死者10名、負傷者115名、家屋の全壊31棟、半壊172棟、床上浸水22,894棟、床下浸水46,943棟、被害総額は8,500億円の甚大な被害となり、水害の恐怖を実感させました。

コロナ禍中の愛知県内においても、令和2年7月豪雨や東海豪雨などの大規模な災害が起こらないとは限りませんので、しっかり備えましょう。(写真は河川課HPより転載)



新川の破壊状況 (清須市)



水没した自動車

豊田市藤沢 (県道豊田明智線)



崩落した道路 (豊田市夏焼町)



◆危険な場所から全員避難！みんなで逃げ遅れゼロへ

日頃からハザードマップ等で危険な場所や避難経路の確認、非常持ち出し品の準備などを行い、災害時には各市町村や気象台の発信する避難情報や気象情報を正しく理解し、適切なタイミングで避難ができるようにしておきましょう。

また避難先については、小中学校や公民館だけではありません。特に、新型コロナウイルスの感染が懸念される状況を踏まえ、安全な自宅にとどまることや安全な親戚・知人宅等への避難も含め、適切な避難先について考えておきましょう。

避難のポイント

◎事前にハザードマップ等を確認！

安全な場所にいる人まで避難所に行く必要はありません。市町村が発行するハザードマップ等で自宅の災害リスクを確認し、事前に家族で避難場所等について話し合っておきましょう。

◎避難先は、小中学校・公民館だけではありません！

安全な自宅に留まることや親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。

◎避難する際はマスク・消毒液・体温計を持参！

できるだけ携行してください。

◎豪雨時の移動は車も含め危険！

屋内での安全確保（斜面と反対側の2階以上の部屋への移動など）をしてください。

◎避難所が変更・増設される可能性があります。

災害時にはお住まいの市町村の Web ページなどで確認してください。

2019年に、水害、土砂災害の防災情報は「警戒レベル」で避難のタイミングを伝える方式に変更となりました。「警戒レベル4」で危険な場所から全員避難をしましょう。

避難指示（緊急）は必ず発令されるものではありません。避難勧告が発令され次第、避難指示（緊急）を待たずに速やかに避難してください。

なお、避難情報のあり方については検討が進んでおり、変更の可能性があるため、随時国や都道府県、市町村等が出す情報の確認をお願いします。

避難情報と防災気象情報

水害・土砂災害について、市町村が出す避難情報と、国や都道府県が出す防災気象情報は、5段階^{※1}の警戒レベルを用いて提供されます。

〈避難情報など〉			〈防災気象情報〉
警戒レベル	避難行動など	避難情報など	〔警戒レベル相当情報(例)〕
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動 をとりましょう。	災害発生情報 ^{※2} <small>※2 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令</small> 〔市町村が発令〕	警戒レベル5相当情報 氾濫発生情報 大雨特別警報 など
警戒レベル4 危険な場所から 全員避難	速やかに危険な場所から避難先へ避難 しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示(緊急) ^{※3} <small>※3 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令</small> 〔市町村が発令〕	警戒レベル4相当情報 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 など
警戒レベル3 危険な場所から 高齢者などを避難	避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児など)とその支援者 は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・ 高齢者など避難開始 〔市町村が発令〕	警戒レベル3相当情報 氾濫警戒情報 洪水警報 など
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの 避難行動を確認 しましょう。	洪水注意報 大雨注意報など 〔気象庁が発表〕	警戒レベル2相当情報 氾濫注意情報 など
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 〔気象庁が発表〕	(国土交通省、気象庁、都道府県が発表) これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。

※1 各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

(内閣府(防災担当)「避難勧告に関するガイドラインの改定 平成31(2019)年3月29日[令和2年4月更新]より)

令和2年度愛知県防災貢献団体表彰受賞団体の紹介



北校区自主防災会（津島市）



箕輪町自主防災会（安城市）



北尾自治会（大府市）



鈴井町区自主防災会（岩倉市）



大口町北地域自治組織（大口町）



第三東部この町
みんなで守り隊（大治町）



公益財団法人
豊橋市国際交流協会
（豊橋市）

〔愛知県防災貢献団体表彰制度とは〕
地域社会に活動基盤を持つ自主防災組織や企業などの中から、優れた工夫・アイデアを防災活動に取り入れて活動している団体を表彰する制度です。

あいち・なごや強靱化共創センター 活動報告

中部防災推進ネットワークへの参画

中部圏における業界団体間の共助を促進するため、業界団体の連携体制を構築し、行政組織等との協働を図ることで、広域的な災害対応の実現を目指すことを目的として、業界団体や行政、あいち・なごや強靱化共創センター等 31 団体が共同で 2020 年 7 月に設立し、2021 年 1 月現在では 33 団体が参加しています。今年度は、総会や勉強会を開催し、各構成員の防災活動について情報共有を行っています。

BCP 講習会の開催

- ・日 時：11 月 19 日（木） 14:00～16:10
- ・実施方法：オンライン開催（Zoom）
- ・申込者数：24 名（受講者数 20 名）

BCP（事業継続計画）とは、平常時から自社の最も重要な中核事業を特定し、大規模災害発生時に速やかにその事業を復旧できるようにあらかじめ計画を確立しておくことをいいます。

既に作成されている BCP を改善していくための講習会を開いています。



防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎」を開催しました

防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎」は、自然災害に対応する地域防災力を向上させるため、防災ボランティアや若者、行政等の防災・減災の担い手が、地域、世代、組織等の枠組みを超えて協力し合えるよう参加者の様々な絆をつくることを目的としたシンポジウムです。今年3月で東日本大震災から10年の節目となることから、東日本大震災の教訓を将来の備えにつないでいくため、東北から語り部をお招きし、11月15日（日）に名古屋市公会堂において開催しました。

当日は、「NPO法人富岡町3.11を語る会」代表の青木淑子さん、「(一社)おらが大槌夢広場」代表理事の神谷末生さん、東北福祉大4年生で3.11の震災でおじいさまをなくされた経験を持つ志野ほのかさんのお三方をお招きして、2011年3月11日の出来事を語っていただきました。当時を実際に知る人の「言葉の強さ」を実感しつつ、語り継ぐことの大切さと、これから起こることが予想されている「南海トラフ地震」への備えの重要性を認識しました。

その後、語り部の神谷末生さん、3.11メモリアルネットワーク共同代表/宮城教育大学の武田真一特任教授、名古屋大学防災サークル「轍(わだち)」前代表の藤岡祐太さん(同大3年)や「美浜・南知多防災の会」の原真理さん、名古屋大学減災連携研究センター長の福和伸夫教授が参加し、認定NPO法人レスキューストックヤード(名古屋市)の栗田暢之代表理事がコーディネーターを務めたパネルディスカッションが開催され、災害の教訓の伝承方法や防災人材の交流のあり方などについて意見交換がなされました。

当日は92名の方が参加され、YouTubeの配信も行われ、56名の方が視聴されました。また公会堂ホールでは、段ボールベッドや災害のパネル展示等も行われ、来場者は熱心に見ていました。なお、当日の様子はYouTubeでも配信しています。

YouTubeのURL：<https://www.youtube.com/watch?v=3lfJvKVkm7M>



青木淑子さん



神谷末生さん



志野ほのかさん



パネルディスカッションの様子



熱心に展示を見る人たち

「災害ボランティア連携・協働研修会～官民の多様な支援主体の連携・協働に向けて～」を開催しました

大規模災害時における避難所運営や福祉、災害廃棄物、家屋被害、多文化など多岐にわたる支援ニーズに対応し、被災地の復旧・復興を図っていくには、行政と様々な専門知識やスキルをもつボランティア団体やNPO・NGO、企業等の支援者の方々との連携・協働が重要となります。

災害時に多様な主体の連携・協働の必要性を理解して行動に移せる人材を育成し、地域内で連携・協働体制の構築、活動の活性化を図るため、内閣府（防災担当）主催、愛知県共催で11月24日（火）に「災害ボランティア連携・協働研修会」をオンラインで開催しました。

当日は、内閣府（防災担当）参事官補佐の諸留逸氏や認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOD）事務局長の明城徹也氏による基調講義のほか、認定NPO法人レスキューストックヤードの栗田暢之氏の司会進行のもと、長野県庁や長野県社会福祉協議会、NPO法人長野県NPOセンターから3名が登壇され実施された、令和元年東日本台風被災時の取組に関するリレートーク、研修参加者が4、5名のグループに分かれ、被災者の困り事や支援者の連携の必要性について理解を深める演習などが行われ、約100名の方が参加しました。



内閣府 諸留逸氏の講義の様子



熱心に講義を聴く参加者

JVOD 明城徹也氏の講義の様子



地区防災計画作成促進研修

2020年12月14日（月）午前10時～正午まで、オンラインで内閣府主催の地区防災計画作成促進研修が行われ、県及び25の市町村が参加しました。この研修は浅野幸子氏（減災と男女共同参画研修推進センター共同代表、早稲田大学 地域社会と危機管理研究所 招聘研究員）、鍵屋一氏（跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 教授）、加藤孝明氏（東京大学 生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター 教授）をお招きし、下記2点をテーマに開催されました。

○地区防災計画とは？

概要、作成メリット、先進事例、作成に向けて必要な手続等の紹介など

○地区防災計画のづくりの進め方

地区での防災活動の機運の盛り上げ方、計画づくりの始め方、居住地域の災害リスクの認識の方法、とるべき避難行動についての合意の仕方、市町村や地域の福祉関係者・学校関係者との連携方法など

民間企業等と連携した取り組み

◎民間企業等と連携したチラシの配布

(一社)日本損害保険協会中部支部の取りまとめの上、(一社)日本損害保険協会中部支部及び県内の損害保険会社8社に家具固定啓発チラシを77,000部提供しました。

また、愛知県住宅供給公社を通じて、県営住宅賃貸居住者へ家具固定啓発チラシを5,000部提供しました。

愛知県と「防災取組に対する地域防災力向上の相互協力協定」を締結している損害保険ジャパン(株)と共同で、防災啓発資料を作成し、損害保険ジャパンの提供により、損害保険ジャパン専業保険代理店に3,500部配布をしました。



チラシは下記URLからダウンロードできます!

家具固定チラシ：<https://www.pref.aichi.jp/bousai/kagukotei/kagukotei.pdf>

損保ジャパン共同作成チラシ：https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/300179_1132597_misc.pdf



◎大規模集客施設での啓発ブース出展、地震体験車による体験

中日ハウジングセンターと連携し、10月11日(日)神宮東、11月8日(日)岡崎、11月22日(日)黒川東の各ハウジングセンターで、家具固定推進啓発のブースを展開、また、地震体験車の「なます号」も各イベントで活躍しました。



中日ハウジングセンターでの地震体験車の様子
(感染症対策として検温を行いました。)



啓発ブースの様子

10月30日(金)から11月1日(日)にかけてイオンモールナゴヤドーム前にて啓発ブース等を展開しました。11月14日(土)、15日(日)は、栄のオアシス21で開催された「あいち住まいるフェア」に出展しました。11月28日(土)、29日(日)は認定NPO法人レスキューストックヤードと連携し、AICHI SKY EXPOで開催された「フィールドスタイル」に出展しました。

コロナ禍の中、年度前半(4月~9月)はイベントへの出展等を中止しておりましたが、10月以降感染症対策を適切に行った上で、出展等を再開しました。来場者は例年よりも少なかったものの、たくさんの方にブースの閲覧や地震体験をしていただき、家具固定の大切さを知っていただくことができました。

防災・減災カレッジはオンラインで開催

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前期分はすべて中止しました。後期分は、内容を縮小し、防災基礎研修を9月19日（土）と10月2日（金）の2回オンラインにより実施しました。

📍 愛知県家具固定相談窓口を設置し、家具固定に関する相談を受付中！ 📍

愛知県防災安全局防災部防災危機管理課内に家具固定に関する相談窓口を設置しています。家具固定について疑問点などがございましたら、以下の相談窓口へお電話、FAX又はEメールでお問合せください。

<愛知県家具固定相談窓口>

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

愛知県防災安全局防災部防災危機管理課啓発グループ（本庁舎2階北側）

電話：052-954-6700（ダイヤルイン）

月～金 午前9時から午後5時15分まで

（土、日、国民の祝日等の休日及び年末年始（12月29日～1月3日）を除く。）

FAX：052-954-6911

Eメール：bosai@pref.aichi.lg.jp

主な相談内容

- ・ 自主防災組織等を対象とした講習会等への家具固定推進員の派遣相談
- ・ 家具固定の方法や器具の紹介
- ・ 家具固定器具取付け支援制度の紹介 など



📍 愛知県家具固定推進員の派遣を実施しています 📍

家具固定推進員（家具等転倒防止対策を推進するボランティア）を地域の講習会やイベント、防災訓練等に派遣し、家具固定器具の取付実演や啓発活動を実施しています。家具固定推進員の詳しい内容や派遣申込みについては、「愛知県家具固定相談窓口」までお問合せいただくか、以下のWebページを御確認ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/kagukoteisuishininhaken.html>

2019年度は121件の派遣実績がありましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症発生の影響で、9月まで派遣を中止し、10月から再開しました。12月末日現在で16件の派遣実績があります。再開にあたっては、感染症対策チェックリスト等を活用し感染拡大防止に努めています。

愛知県の防災に関する情報は以下の防災安全局のページから御覧いただけます。

<https://www.pref.aichi.jp/bousai/>



あいち防災通信に関する問い合わせは、愛知県防災安全局防災部防災危機管理課啓発グループまで 052-954-6190